LUZ の熊野古道案内

2009 年　9 月　中

9 月 13 日　～　22 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００９年　９月

９月１３日　紀和の火祭り　１
９月１４日　紀和の火祭り　２
９月１５日　紀和の火祭り　３　北山砲
９月１６日　熊野古道・歩く道・松本峠
９月１７日　熊野の基幹産業　製材　**1**　職工の技
９月１８日　熊野の基幹産業　製材　**2**
９月１９日　熊野の基幹産業　製材　**3**
９月２０日　秋晴れ　何やかやと・・・
９月２１日　旅人が立ち寄られました
９月２２日　学校統廃合　最後の運動会　１　飛鳥小学校

2009 年　09 月　13 日

熊野の旅　紀和の火祭り　1

行ってきました。

『紀和の火祭り』…

夕方、紀和町に向かう途中でも少し降りましたが、着いてうろついている時には雲行きは悪いけど、何とか持ちそうな感じもしたのですが…

時間予報では夜に入るとよくないと言うことで、主催者も心配していました。

「小雨決行」とされていましたし、大降りを一度もしていないのでそのまま開催になりましたが、こんな時の予報は当たる物で、行事が始まる頃にはしとしとと…

見物する分には傘さえ差していれば大丈夫程度なのですが、カメラが主体の物にとっては事実上撮影不能です。

これがこの祭りの呼び物の一つ『北山砲』と言われる物です。

丸太をくりぬいて荒縄で縛った大砲です。

浜松の「手筒花火」は竹を芯に荒縄をぎっしり蒔いて補強してありますが、ここのは非常に危なっかしい代物です。

例え花火と言えども破裂しそうな物で、とても大砲にはなりそうに無いです。

しかし、ここから花火を噴出させようと言うのです。

危険ラインは前方にはありますが、後ろや横には無いに等しいのです。

しかし、心配御無用！

実際には夕方になるとこの中に、ゴトンと長さの揃った鉄の発射管をはめ込むのです。だから、この丸太が割れることはありません。

謂れは知らないのですが、「北山」と言えば「一揆」といわれるところですから、一揆に関係あるものから考えられた物かもしれません。

この祭りはこうして行われるのは20回目とかです。
もう、「恒例の…」から「伝統の…」に昇格する頃でしょう。
出し物は、町民の娯楽が目的らしく、夕方にはぽつぽつとフォークソング的な歌がやられたり、夜もそうした歌があり、「ビールの早飲み」「子供の太鼓」などがかなり長く続きます。
花火は中々始まらないし、雨もちっとも止まないし…
「北山砲」のすぐ横に三脚を立ててもカメラを載せて置けないし…
本番になってきて行事が始まった頃にはちゃっかり入り込んだ本部席からほとんど出られませんでした。

1ヶ月余って延期された行事ですし、天気ももう一つ心配なので町外からの客が少ないらしく、地元の人には『半分も居らん』と言っていました。
そうでしょうね。
少し濡れると肌寒いし…
お店も一杯出ていましたが、売り上げのほうは…
と、言いつつ。「買い食い」しない私は、どこへ行っても、何も売り上げに協力しないのですけどね。
この祭りを維持するためのカンパの竹筒にコトンと硬貨を入れただけです。

Tags:熊野市 紀和町 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-09-13 12:08

2009年　09月　14日

熊野の旅　紀和の火祭り　２

雨模様で始まった『際の火祭り』ですが、元々、１ヶ月余って延期されてしまい、

更に前夜からの小雨と天気予報の悪さ…一杯重なったので会場は寂しい感じでした。
　紀和町の全人口はこの９月１日現在で１．４９８人です。
　広大な紀伊山地の山間部に点在する集落から会場に来るもは大変です。地元と言えるのは、目一杯見積もって１．０００人でしょうね。
　その人口のところでこのイベントを維持するのは大変だと思います。
　どれだけの範囲から集まっているのか、結構若い層の人が揃いのＴシャツで頑張っていました。
　まだ、これだけ若い衆が居るのかなあ？？？

若い人たちが実行部隊だからでしょう…まだ会場に人が集まるまでに舞台で歌っていたのも、若い娘たちでした。
騒々しい音楽ではなく、おとなし目のフォークっぽい感じでしたが、いかにも人が居なくてかわいそうな感じもしました。
延びていなくて天気が良かったら、早い時間から場所取りもあるので人が集まってお祭り気分なのでしょうがね。

この会場は熊野川・北山川の河川敷です。
かなり高い護岸はこの辺りだけ階段状に固められています。
明らかにこうしたものの観客席を意識した構造です。
河川の幅を確保するために急な階段状で、トントントンと降りられる物ではないですが、沢山の人を収容できるスタンドです。
駐車場はグランドなどがすぐ脇にありますが、まともな時に開催されたら収まりが付かないでしょう。かなり遠い場所に止めて歩かなくてはならないようです。
それでも、熊野の花火大会のようなことは無いでしょう。

会場にも恵まれ、実行部隊も確保できているイベントですから、しばらくは大丈夫そうです。
でも、紀和町の人口の動きからするとちょっと不思議な感じもします。
集まってくる観客の中には子供たちも混じっていて、いわゆる「ガキ共」は走り回っていて、女の子たちはグループになって遊んでいるのはどこでも同じですね。数が多いか少ないかだけです。
写真の後方で明るくなっているところはプロの露天商さんたちの夜店街です。この人たちもこの日はあまり良くなかったでしょうね。
地元関連の出店とは完全に分離した会場作りです。
地元関連の方は、弁当、生ビール、焼き鳥など食べ物主体なのでそこそこ賑わっていましたね。
５時ごろから集まってきているので、階段で仲間や家族が揃って弁当をぱくつく姿

が多かったです。
　人の割りに良く売れていますね。
　その時間位のときは、空が心配でも何とか持ちこたえていてくれたのですけどねえ…

　と、言うことで辺りが暗くなってきてようやくイベントが始まったわけです。
　明日はこのイベントについての写真を少し掲載します。

Tags:熊野市 紀和町 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-09-14 11:02

2009年　09月　15日

熊野の旅　紀和の火祭り　３

　日が暮れて来ると祭りが本番に入ってきます。
　残念ながら、その位から雨が止み間がなくなりました。
　本格的降りとも言えないけど、かさが無いとどんどん体が濡れてくる位ですし、カメラを振り回すのはためらわれる程度でした。
　「ビールの早飲み」「音楽グループのステージ」「子供の太鼓」色々やっていましたが、カメラをぬらすのも嫌なので来賓用のテントにちゃっかりもぐりこんで居たのでステージから遠くてほとんど見えない状態でした。

　『紀和の火祭り』という位ですから、主役は『火』なのです。
　『北山砲』というやつよりも、たいまつを高い杉の丸太の先につけた籠に放り投げて入れるのが主役なんです。
　籠に入ると「五穀豊穣」とか良い事があると言う事らしいです。
　籠の位置が随分高いので簡単には入らないようです。
　ぐるぐる振り回して、勢いをつけて放り上げるのですが、子供用にゴムマリに紐をつけたものをたいまつに見立てて投げて籠に入れる遊びもやっていました。
　玉入れの変形ですが、紐を持ってぐるぐる振り回して投げるのですから、中々入りません。
　まさか、子供にたいまつを投げさせるわけにも行きませんが、本番の真似事を子供にさせてやるのも祭りとしては良いことでしょう。

　低学年、高学年などに分けて、籠の高さも変えてやらせる配慮もあり、数少ない子供たちを大切にしているのが見える企画ですね。
　子供たちの中で何人ここに残るかは別として、思い出の中に「火祭り」が「自分たちの祭り」として残りよいでしょう。
　私は参加型の祭りの無いところで育っていますから、「祭り」の記憶がほとんどありません。
　物の少なかった時代ですし、怪しげな露天のたたき売りなどを覗いた記憶しか無いですね。
　余り祭りが好きでないのはそのせいかも知れません。

　で、こんなのをやっている間に、いきなり…『ドン！』と鳴りました。
　場内アナウンスなしで、『北山砲』に火が入ったのです。
　あわてて、三脚のところに駆けつけても、天気がよければそこに乗っけて用意してあるはずのカメラは当然ありません。
　６門かそこいらしかない『北山砲』ですから、すぐに終わりますし、暗闇で雨の中ビニール袋にねじ込んだカメラを三脚に取り付けようとしても思うに任せないし…
ようやくセットして、無理やり動かしてほっとしたのですが…
　大失敗です。
　本来、一番ワイド側で無いと入らないのを確認済みの場所に三脚を立てたのに…
　それまでの撮影の関係でズームを動かしていたらしく入って居ません。
　データを見ると、なんと、最悪で長い方の端に成っていました。画角が半分ですから入るはずはありません。
　最悪でした。

写真の右端で打ち出された玉が開きかけていますが、これが尾を引きながら画面右の方に髣髴線を描く予定だったのです。
呼び物なんですから、発射がみんなにわかるようにして欲しいですね。
まあ、雨でなければ、カメラをセットして待機しますから一発目を逃すくらいで対応できますけど・・・

と言う事で、失敗作になりました。
この時間になると本降りになってきて、とてもカメラを振り回せる状態ではなくなってきましたから。もう一つの本番の『松明投げ』まで待てないで引き上げてきました。
何しろ、ビニール袋に入れてレンズめんだけ出したつもりのカメラでも北山砲の数カットでやはり濡れていましたからね。
失敗したので、来年も行かないといけないようです。

遠くからわざわざ見に来るのは、祭り好きでないとどうかと思いますが、「熊野古道」に来たついでにこの祭りも織り込むのは良いでしょう。
会場のすぐ傍に、『瀞流荘』という宿泊施設もありますし、もう少し奥の『湯ノ口温泉』にはバンガロー風のものもあります。
雨で今年のように延びない限り、８月第一土曜日だと思います。
多分、今すぐに予約しないとこの日は一杯なのでしょうね。
熊野市の中心部から２０分ほどで着きます。
お金がたっぷりあるなら、「熊野倶楽部」泊まりてのはいかがでしょう？

Tags:熊野市 紀和町

by **je2luz** | 2009-09-15 11:03

2009 年　09 月　16 日

熊野の旅　熊野古道・歩く道・松本峠

熊野古道は古い道です。

きちんと整備された『東海道』とか『中仙道』などの五街道などとは違い、物資や軍勢まで通すような規格の物ではありません。

せいぜい、背負子や頭に載せて運ぶ程度のことが想定されていた道です。

だから、随分整備された『松本峠』でも道幅はものすごく狭いです。

「道」と言う字より「径」といった字のほうが似合いそうです。

杉木立の中の細い道ですから、唱歌「箱根の山」に出てくる、「羊腸（ようちょう）の小径（しょうけい）は苔（こけ）滑らか」と言いたいところですが、『松本峠』はとても。『八里』の足元にも及びません。『里』ではなく、『丁』にしても全部で 2 丁ほどなのかなあ…

短くてもやたらと広くも無いし…肩が触れ合う程度の径ですからムードはありますね。

向こうから人が来れば、無条件ですれ違うと言うよりは、足を止めてお互いに少し譲り合う感じになります。

「尾瀬ヶ原」のように狭いわけでも無いですけどね。

でも、二人でムードを出して…なんて言おうにも、いくら私が『弱脚者の熊野古道』と呼ぼうと、ここは『松本峠』で『峠道』なのです。腕を組んで歩けるという物でも

無いですね。
　足元もそんなによろしい訳でも無いし…
　運動不足に人なら、少しは息も切れますしね。

　熊野古道を歩きに来られる人の大多数は中高年の人のようです。
　ことにグループで来られるのはそのようですね。
　この人達も 70 世を越えた人たちです。
　歩き始めて 100ｍも来ないうちに…
　『あかんなあ…何にもせんと居るとなあ…』と言いながら登ってゆきましたが、この峠なら残りは 200ｍちょっとです。「何にもせんと居った」人たちでも楽しく歩きとおせます。

　このように、『松本峠』は『熊野古道』を味わうには良いところです。
　「世界遺産・紀伊山地の霊場とその参詣道」なんてとんでもなく広い物で、その大部分を占めるのは『熊野古道』です。200Ｋｍにも及ぶ道筋で、残されているのは峠道ですから、ここを味わえば料理の味見以上に味わえると思います。
　昔の人の『難行苦行』をうかがい知るのには楽すぎますけどね。
　うんと『何にもしない人』の方が『いにしえの人』の気持ちが分かるかもしれません。
　峠の傍の展望台から見える「光る熊野灘」「熊野三山から始まる紀伊山地」…息が切れていれば居るほど感動的でしょうからね。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ by **je2luz** | 2009-09-16 11:27

2009年 09月 17日

熊野の旅　熊野の基幹産業　製材　1　職工の技

昔に比べ、色んな物が減っていますが、今日取り上げる『製材所』も随分減っています。

昭和３０年代５０年代までは熊野市内にも随分あった物ですし、この辺の中核都市、『新宮市』にはものすごい数の製材所があったものです。

紀州は『紀州材』と言われるように全国指折りの材木の産地です。境目がはっきりしない『吉野』を合わせると広大な人工林を抱えるところです。

育ちの悪い、地形も険しい木曽などに比べ、江戸時代から人手による育林が行われてきています。

紀勢線などもこの材木を搬出することも目的の一つになっていたのですからね。

この工場は私が若い頃に働いていたところです。

フォークリフトで丸太を運ぶ光景は今も変わっていませんが、工場の中の設備は随分変わりました。

フォークリフトに免許と言う物が導入されたにはいつだったでしょう？その時に私もとらないと具合が悪いので免許は取ってあります。

材木を挽く製材機というものの形はこの６０年も余って変わっていません。改良程度ですね。

「帯鋸・おびのこ」と言う物が開発されて、丸太を四角くする機械としてはほぼ完成したと言うことですね。

変わったのは、丸太を製材機に載せたり、丸太を回転させてきちんとした形で据えたり、固定したりする力仕事の部分が機械化されて職人一人、指先で出来るようになったことと、製材されたものが、ボタン一つで仕分けされてその後の処理に合う場所

にベルトコンベアで運ばれる装置がくっついたことですね。
　もちろん、本当に良い木を製材する工場、「銘木」を扱う工場ではこうした完全オートメーション化はしていませんけどね。

　私が居た当時と建物は基本的に変わらないのですが、大きな自動機械が座ったので、人間が入り込む場所がなくなりました。
　製材機械を扱う『職工』も完全に一人での作業になり、相談相手も何もなしで、騒音の中で勤務時間中働くわけです。
　恐ろしく人間味の無い仕事場になってしまったものです。
　昔は少し良い丸太が入ると、近隣の製材の親方連中が集まってきて、挽き方について、ああでもない、こうでもない…と議論していた物です。
　一道鋸を入れては木目を見て、見えない五分、一寸中を予測し…面白かった物です。
　それが職工の勉強になり向上して行った物なのです。

　丸太を四角くするだけの仕事に見えますが、丸太のそり具合、ひねり具合をきちんと見分けて、『台車・だいしゃ』と言われるトロッコ状の物に載せて固定し、木によっては一道挽いては留め金の「かすがい」を外して「そり」を逃がし、出てきた分を少しそぎ落とし…
　まさに生き物の丸太を真っ直ぐな四角の材木にすると言う職人技があったのです。
　ただ四角にするのなら、私でもどんどん出来ます。
　建物に入ってからそりが来ない、ひねって行かないように製材するのは簡単ではないのです。

機械化が進み、一人での作業になって、効率は上がっても技術の向上には結びついていないようです。
直径何インチの丸太からは、何センチの板と何センチの角材が取れる…なんて数学の世界と製材は違う部分がありますからね。
それは、見て覚え、付いて教え、経験を積んで覚える物です。

まあ、今の建築のように、木も見ないで寸法どおりに削りだし刻んで、無理やり金具で押さえつけて汲み上げる木造住宅ならとりあえずは家になるでしょうけどね。
でも、はなから先が見えるようなものです。

Tags:熊野市 昭和 紀州財　　by **je2luz** | 2009-09-17 12:07

2009 年　09 月　18 日

熊野の旅　熊野の基幹産業　製材　2

製材所では元来二人一組で仕事をしてきました。
長くて重いものを扱いますから、一人ではできなかったと言うこともあります。
一方では、木の挽き方を決めて機械を操作する、『腹押し工・はらおし』が助手に当たる『先取り工・はなどり』に少しずつ仕事を教え、助手の方は現場で毎日見て覚えて行ったのです。
一種の徒弟制度的なところもあったわけです。
確かに、新人教育には効率の悪い方法です。
しかし、昨日も書いたように、不透明で中の見えない丸太の節を予測したり、反りやひねりを予測して製材するのは数をこなさないと分からない物です。
「助手・はなどり」をしていても、漫然と出来上がってくる端材や製品を受け取って仕分けしているだけだと、退屈で面白くないし、10 年経っても木を挽けるようにはなりません。
数学的には、丸太の細い方（末口）がどれだけあれば、4 寸角の柱が取れるなんてのははじき出せるのですけどね。
節も無く、曲がりも無く、ひねりも無い丸太なんて一本もありません。大根でさえひねったり曲がったりしている物ですからね。
今は助手が居ないのですから、そうした経験を積むことなく、「腹押し工」の傍に居てすぐから教えられます。詳しくはプリントを見て暗記する…なんて事ですし、働かない人間を何年も台車に乗せて月給を払うような余裕はどこにも無いですからね。
これは養成所みたいなところへ行っても同じ事なのです。
いっぱしの理屈？は言っても、良い木を挽かせると壊してしまうことが起きるのです。
一番の被害者は製品価値を落とされる会社ではなく、本当はそんな木で家を建てられる施主さんでしょね。

丸太を製材する時には、外の皮が邪魔になります。

皮が付いたままで製材機にかけると、のこぎりが皮も挽くので黒い色が製品について汚くなります。さらに、ざらざらした皮には小石や砂が挟まっていることがあり、のこぎりを傷めます。

端材の処理でも、皮が付いたままではパルプ用のチップにも出来ません。

と、言うことで皮は綺麗に剥ぎ取ります。

昔は人力でしたが、これも今は「バーカー」と言う機械でむきます。

この工場は山間部飛鳥町の大又川河畔にありますし、近所には家が二軒しかありませんから、騒音も匂いも割合と平気でやってきましたが、製材と言う物は結構騒音も大きいし、匂いもきついし、埃も立つし、大型トラックは出入りするし…

昔は町中にも一杯製材所があったのですが、周辺に家が建ってくるようになると操業できなくなってやめてゆきましたね。

それに、廃棄物処理などに大金が掛かるようになるし、製材所が儲からなくなってきて、広い敷地で赤字を出すより宅地で売るなり、貸すなりした方がましになったこ

ともありますしね。
　全国でも有数の材木の集散地で製材所もものすごくあった、新宮市内も今では皆無に近いです。

　材木・製材・林業業界の凋落は、この端材の最終形のチップにも出ています。
　かつては、製材の端材を集めてこのようなチップを作る「チップ工場」も沢山あったのです。
　杉も桧も端の端まで利用しつくされたのです。
　しかし、今では紀州で動いているパルプ工場は鵜殿の「紀州製紙」だけです。
　かつては、地元の杉桧のチップは新宮の「巴川製紙」に運んだのですが、今ではその工場跡には巨大なショッピングセンターが出来ています。
　金を生み出す工場から、なけなしの金をよそに持ち出すためのショッピングセンターへ…
　困った傾向ですね。

　このチップサイロは私が若かった頃からあります。
　このサイロからチップを積んで「巴川製紙」まで運んだ物です。
　その頃は 43 号線は砂利道で、重心の高いチップを積んだトラックの運転には気を使ったものです。
　町中では軒先を削ったこともありますし…

　運ぶ物が無くなってトラックは減ったのに道だけは良くなっていますね。
Tags:熊野市 昭和 大又川　　by **je2luz** | 2009-09-18 12:23

2009 年　09 月　19 日

熊野の旅　熊野の基幹産業　製材　3

製材所は、埃、騒音の他にも大量の廃棄物を出します。
昨日の「バーカー」から出る皮をむいたごみや「おがくず」です。
今流に言えば、これらは全部『天然物』です。
本来は「環境に優しい」代物なのですが、大量なのでもてあまします。

桧の葉っぱやまな板には殺菌作用がある…と言われていますが、殺菌作用がある位ですから中々発酵もしないし腐りません。杉・桧のヤニにはリグニンなんてのがあり微生物も嫌うようです。
昔から、時々、『おがくず堆肥』『バーク堆肥』なんてのが話題になったり、『おがくず炭化』なんてのもプラントが発明された…等と何度も紹介されていますが、実用化は出来ていません。
補助事業で作られた工場のあちこちで出来たのですが、まともに操業できたものは無いようです。
私が製材に居た時にも計画はしてみたのですが、堆肥化するのなら設備はそんなにたいそうな物もいりませんし、この工場の立地条件なら臭いもさほど問題にはならないのですが、場所はとるし、それに出来た堆肥をどうするか…も問題でした。
有機肥料というやつは農地に戻すのもコストの掛かる物です。
農地が生き返るので良いのはわかっているのですが、家庭菜園程度では無い山間部の農地では大変なことなのです。
それと、発酵しにくい杉桧のおがくずを発酵させるためには、『米ぬか』と『酵素』が必要です。
出来てくるおがくずは大量ですから、「米ぬか」も沢山要ります。これの確保の見込みも立ちませんし、何より、『酵素』なるものがものすごく高かったです。
発酵途中の物を取り出して次のに混ぜれば、生きた酵母のような物が働いているので新しい「おがくずと米ぬか」の山で活動してくれるはずなのですが、大変な手間になります。
考えるだけでうんざりする作業になるので結局やりませんでした。
ブースをいくつか作って、フォークリフトにバケットを取り付けて次々と定期的に移しながらひっくり返してやれば空気が入って高温で発酵する割と単純なことなのですが、やったところも続かなかったようです。

木の皮の方はもっと厄介です。
おがくずは細かい粉ですが、杉桧の木の皮は機械でむいても長さがあって絡み合うので取り扱いがもっと厄介です。
発酵させて肥料にするなら粉砕の必要も出ます。
叩いて粉砕できるようなもろい繊維ではありません。
回転する刃物などには巻き付いて機械を止める位に杉桧の皮は丈夫な繊維なのです。　こちらも実用化はされていませんね。
開発、発明に手がけるところも多いのですが実用化には至らない訳です。
この部門だけではなく、テレビや新聞で「大発明」と紹介されるものの大多数が、『理念は良いけど…』と言うものなのです。

今ではこうしたものを野焼きすることも出来ず…焼却炉を据えると排煙処理もしなくてはならないので、製材くずを処理するプラントに数千万かけなくてはいけないとか…
「自然のもの」なのに…
「取れた場所」なのに…
焼くことも捨てることも出来ないのです。
こうしたことも、製材業を圧迫し、林業を圧迫していますね。

それに…
世の中は、『安けりゃあ良い』が当たり前になってしまったのもこのことより厄介なことです。
日本の木材を使った建築は安普請でも５０年６０年持ち、まともな建物は１００年２００年大丈夫だったのですがねえ…

Tags:熊野市 大又川　　by **je2luz** | 2009-09-19 11:17

2009 年　09 月　21 日

熊野の旅　旅人が立ち寄られました

今日は続けて来客がありました。
地元の若い人と、大阪からの若い人でした。
地味との若い人は、知り合いの人で私のブログを見て話したい人が居るみたい…ということでした。
もう一方は、大阪からの旅人で私のブログを読んでくれている方です。
長年書き続けているので、少しずつ固定した読者の方も増えてきたようです。
ネタ探しに四苦八苦していますが、こうしたことが張り合いになって頑張り続けら

れます。

　大阪からの人は、花の窟神社、産田神社、熊野倶楽部、獅子岩とざっと案内して別れました。
　熊野倶楽部についてはやはり少し疑問を感じたようです。
　新しくて綺麗…なんですけどね。

　昨日の日曜日は結局のところ、今年度一杯で廃校になる山間部の小学校二校の運動会に行ってきました。
　私の母校でもある、『熊野市立小阪小学校』と少し上流にある『熊野市立飛鳥小学校』です。
　両方とも私にとっては地元と言える学校ですから、最後の運動会くらいは…と写真を撮りに行きました。
　小坂小学校の方では、小阪地区の人たちが沢山集まっていました。
　お年よりは今以上に地元での結婚が多かったので、皆さん、OB、OG です。
　最高齢は９０歳になられたと言う、近所の人でした。
　「小姑」になる人と一緒に見物されていましたが、二人とも製材工場当時とか木工所当時に働いてもらったことのある人です。
　この方たちがこんなになられたのですから、私もそれだけ歳を取ったということですね。
　でも、この人から見ると、まだ私は『ちゃん』の付く存在です。
　ありがたい話です。
　一代、「ちゃん」の付くままで居られますからね。

Tags:熊野市 大又川 昭和　　by **je2luz** | 2009-09-21 16:56

2009 年　09 月　22 日

熊野の旅　学校統廃合　最後の運動会　１　飛鳥小学校

　二十数年前、私も山間部、熊野市飛鳥町の小学校の統廃合について、少しばかり画策してみたことがあります。
　その当時でも、統合しないと教育がおかしくなる状況になってきていたからです。
　同級生４人が全部女の子…違う学年３人は男の子…
　そんな状況も生まれてきていましたからね。
　グループ学習なんて出来るわけも無いし、私の子供の頃に映画にまで出てきた「山の分教場」よりひどい状況が出来てきていたからです。
　しかし、子供を持つ親は「賛成」、子供の居なくなったお年寄りが猛反対…で動きが取れなかったものです。
　おまけに、私は飛鳥には住んでいませんでしたしね。

　更に月日が流れると、子供の数は減る一方です。

すでに、日本国の子供の数は私の同学年の半分ほどに減っているのですから当たり前の話なんですけどね。
半分の子供が、半分の数の子供しか生まなければ…
実に単純な話なんです。
近年でも、怖すぎる話なので公には具体的な話を出さないだけです。

ようやく、山間部の小学校の統廃合が実施に移されることになりました。
そして、この９月２０日に「最後の運動会」が行われました。
以前から、運動会は「区」との合同開催になっていましたが、最後も「区」との合同でした。

統廃合になるのは、『熊野市立飛鳥小学校』、『熊野市立小阪小学校』、『熊野市立日進小学校』の三校です。
これらは、旧・飛鳥村立のもので、同じ村の学校だった物です。
明治時代に学校が出来る頃、この飛鳥町の地形が大又川沿いに細長く伸びる物で、小さな子供が例え中心部に学校を作っても通学困難と言うことで、上流・中流・下流の三箇所に小学校を構えたのです。
そして１３０年ほど経って、１校に絞られることになったのです。

最後の運動会と言うことで、小学校がなくなる、大又・小又地区の『飛鳥小学校』と小阪地区の『小阪小学校』に行ってきました。
小学校・区の合同運動会と言っても、両校ともに児童数が全校で十数名とかですから、出し物のほとんどが大人参加のものです。
私の子供の頃のように沢山の子供が居た時でも一般参加のリレーや老人の参加するものはあったのですが、今では一般参加の番組の間に『児童』の物が混じっていると言う感じですね。

大又の『飛鳥小学校』では一般…お年寄りの集まりがもう一つ良く無い感じでした

が、中学生とかの若い子が勢ぞろいするくらい集まっていて、一般参加の競技に参加していましたね。
　古典的な『飴喰い競争』を含んだ障害物競走なんてのも行われていました。
　まあ、上の光景は普通のものですよね。
　しかし…
　ここは小さな集落の田舎です。
　走ってきた相手次第では下のようなことになります。
　そのために、区長さんを始め、腕っ節の強そうな人が飴を入れた餅箱のところに待機しているのですからね。
　これが出来るのも、みんなが顔なじみ…という田舎の学校の良いところなんですよね。

　私はここの OB でも無いし、住民だったことは無いのですが顔 j なじみが多いのでこうして最後の運動会の記録を少し残すために出かけました。
　『飛鳥小学校の公式 HP』を調べたのですが、残念ながら２００１年に更新されて以来放置されているようです。
　これも、各地の学校の HP に起きていることで、導入されたパソコンも熱心な先生が居る時は動いていても、居なくなると忘れられると言うことが多いのです。
　最後だからと言って私が書き変える事も出来ませんしね。
　機会があれば、校舎の風景などを入れたページを私の HP に組み込むかどうかしておこうと思っています。

Tags:熊野市 大又川 学校統廃合　　by **je2luz** | 2009-09-22 11:48